

東区の「人」紹介 No.1

童話作家 詩人 成本和子さん



見事に咲かせたボタンの花と自宅のお庭にて

2013年3月5日、西大寺電町ブログの在本桂子がお宅にお邪魔し、お話をうかがいました。

先生はおみかけのような優しいお人柄で、小さな生物や植物にいたるまで細かく心を砕き、優しい母の眼でミクロの世界を表現できる詩人 童話作家です。生きとし生けるかけがえのない命のぬくもりをやわらかな言葉の手肌でやさしく抱きとめる母として愛と祈りがどの作品にも込められています。

自宅のお庭には小鳥が運んできたさまざまな植物が育っています。特にヒメジオンの白い花やニオイスマイレなど愛でていらっしゃる

す。西大寺で生まれた「いちばんぼし童話の会」は43年間代表として後進の指導にあたっておられます。

童話作家 詩人 成本和子さん

成本和子さんは西大寺公民館の主催の「童話の作り方」講座を受講されました。講師のあべくまお先生のお勧めで受講生たちと「いちばんぼし童話の会」をたちあげました。それから43年目を迎え、代表として同人誌「いちばんぼし」を毎年発行しています。やさしいお人柄そのままのように小さな生き物たちに命を吹き込んだ童話を書かれています。その童話は認められキンダーブックとしてフレール館から『むしのびょういん』という絵本が発行されました。昭和49年のことです。『むしのびょういん』は病院の入り口の看板がぴんぷる ぴんぷるとなっています。それには「ちゅうしゃはしません」と書かれています。絵本が発行されると幼児たちはちゅうしゃをしない病院や、やさしい心遣いのとりことなりました。平成24年『おおかみくんすっぽーん』（フレール館）はやぎのめえおばさんがおこりんぼのおおかみくんの紙芝居をしようとおもったら「ぼく、おこりんぼじゃないよ」と紙芝居の中からすっぽーんと飛び出してきたみんなと仲良く遊べるおおかみくんに成長する姿をやさしいタッチで描かれた絵本です。そのほか、数えきれな

いほど発行されています。



代表作の「むしのびょういん」「くろねこギャグ」「しっぽまがりはほんとにわるい?」(フレーベル館)の表紙

また詩人としても活躍され詩集『ねむねむのひつじ』（らくだ出版）、『生まれておいで』（教育出版センター）、『りんごあかり』（てらいんく）、『成本和子詩集』（てらいんく）等出版されています。

これまでに山陽新聞のカルチャープラザ「童話創作講座」 市民創作講座「童話部門」、各地の公民館講座の講師として後進の指導にあたられました。

また岡山「市民の童話」、岡山市民の文芸「随筆部門」、メルヘンの里「新庄童話」、岡山県文学選奨「童話部門」など長年にわたり審査員を務め、現在は総社市文学選奨「童話部門」、高梁市文学選

奨「童謡作詞部門」の審査員を務めておられます。

「日々の暮らしの中から、胸に響いた感動を掬い上げ、想像の翼ではばたかせ、一編一編の作品を紡いでいます」と成本さんはおっしゃっています。

また詩としては、岡山市立岡山中央小学校の校歌の作詞、岡山市立中央幼稚園の園歌の作詞など、歌曲、合唱組曲の作詞も手掛け、「蝶はばたく朝」は平成21年度北海道公立高等学校入学者選抜学力検査問題に使用されました。

最近では「蝶 はばたく朝」「水鳥のうた」が混声合唱曲になり、楽譜と曲を収録したCD『たったいまのうた』『幸せの花が咲くように』の一曲となり、教育芸術社より発売されています。

プロフィール、受賞歴

ここにすべては書き込めませんがプロフィールや受賞等列記いたします。

1932年岡山県生まれ 1972年岡山市の「しみんのどうわ」に入選以後数々の賞を受賞「日本童話会奨励賞」「岡山市文化奨励賞」「岡山県教育関係功労賞」「聖良寛文学賞」など。

「日本児童文芸家協会」評議員 「岡山市文学賞」監事 童話の選考委員として活躍されました。 2男1女の母としてお孫さんは7

人曾孫1人。東区西大寺中のご自宅で夫君の節夫氏と静かに暮らしておられます。

童謡 ねむねむのひつじ

フジテレビ『ひらけ！ポンキッキ』で放映された童謡です。

ねむねむのひつじ

作詞 成本和子

作曲 いけたかし 1986年

(1)

おひさまにほした

ふっくらおふとん

のはらのなかに

ねてるみたいよ

ねえ おかあさん

たんぽぽのにおい

こねこのにおい

ほわほわ ほわわ

ほわほわ ほわわ

ねむねむのひつじが

やってくる

(2)

おひさまにほした

ふっくらおふとん

くものうえに

ねてるみたいよ

ねえ おかあさん

ふうせんのにおい

おほしのにおい

ふわふわ ふわわ

ふわふわ ふわわ

ねむねむのひつじが

やってくる

(在本桂子 記)